卒後米国留学し、帰国後開業した歯科医ライフについて

My dentist life — opening office immediately after graduating MSD program in US

賀久浩生
John K. Kaku

（かく・こうせい）
ICDフェロー
スーパースマイル国際矯正歯科

2021年度入会の賀久でございます。私の自己紹介を含めたエッセイを書かせていただきます。私の父は香港系の中国人で、５人兄弟の長男でした。当時のミドルアッパークラスの香港人が、やがて中国共産党に支配されるであろう香港ではなく、リベラルな考えを持ち海外で生活できるような力をつけてほしいという祖父母の希望から、安価な船で行ける日本を留学先のターゲットにし、どんな時代でも人に必要とされる医療系の仕事がいいのではないか？ ということで、日本にもある進学校で有名なフランス系のミッションスクール、ラサール高校（香港）を卒業した後、東京歯科大学に入学しました。日本のホストファミリーをして下さった方が松竹映画の方だったことから、当時女優をしていた母と知り合い、２人は結婚しました。

日本での大学生活は日本語が想像以上に大変だったようで、英語の先生にも父の英語が通じなかったと聞きました。そんな苦労から、兄弟達には「日本ではなくアメリカに行きなさい」とアドバイスし、父の残りの兄弟達はサンフランシスコに留学しました。こうして、我が家のファミリーは日本とアメリカに離ればなれになり、私の父方の従兄弟達は全員アメリカ生まれのアメリカ人、そして私と私の妹は日本生まれの日本人になっています。

こうした家庭環境から、私は大学卒業後、歯科医として世界をリードするアメリカで学ぶという前に、父の親戚たちが住むアメリカで一定期間一緒に過ごすということが目標となりました。カリフォルニア大学サンフランシスコ校で研修を１年間させていただいた後に、ボストン大学のマスターコースで私は矯正歯科を、家内は小児歯科を３年間学び、そろそろ国家試験でも受けて現地でも仕事ができるようになりたいと夢を見ていたところ、大学院最終学年のクリスマスイブに父が急逝し、大学院在学中に父がやっていた歯科医院を一度閉院しました。自分と家内の専門が、矯正歯科、小児歯科だった為、父が抱えていた治療中の患者様をきちんと治すことが出来ない事から、日本に帰るならゼロから矯正歯科と小児歯科の専門の医院としてスタートした方が良いのではないか？ という判断でした。

我々が帰国後リスタートし開業して28年が経ち、父の開業から含めますと61年になります。日本とアメリカで、色々な人に支えられてここまで来た歯科医ライフですので、ICDを通してお役に立てることを見つけて次世代にバトンを繋ごうと思っております。